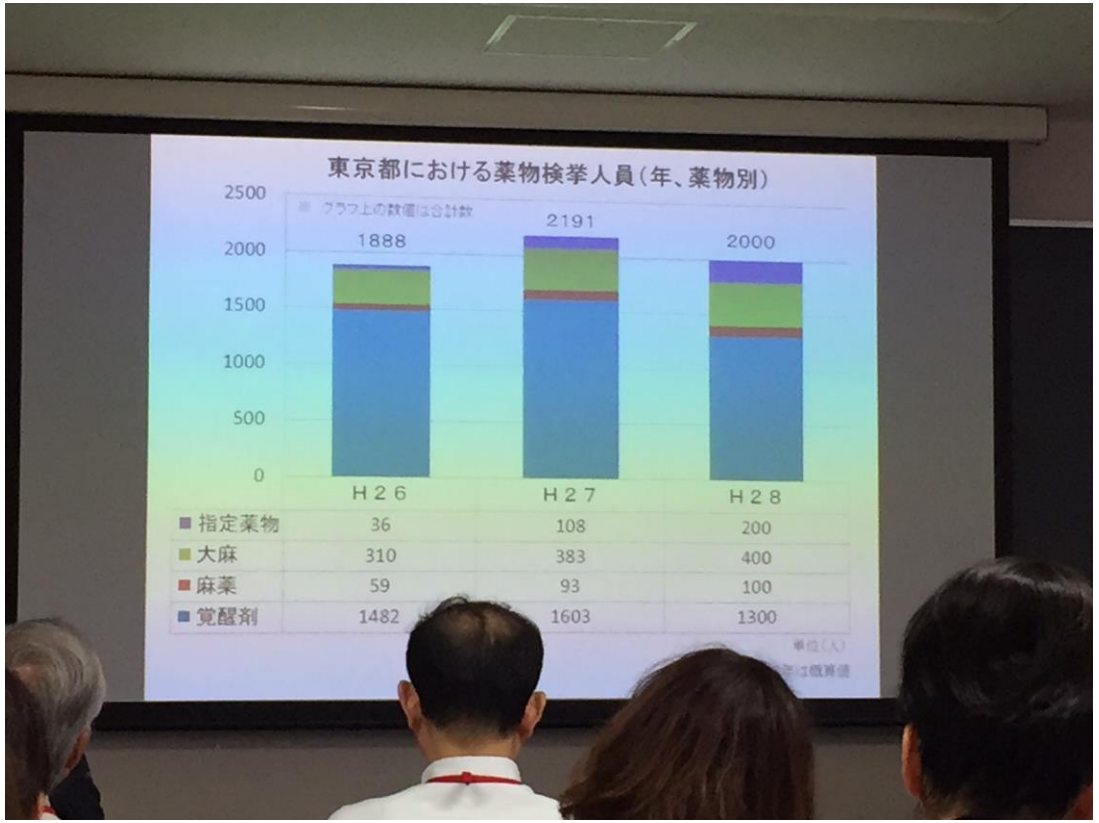
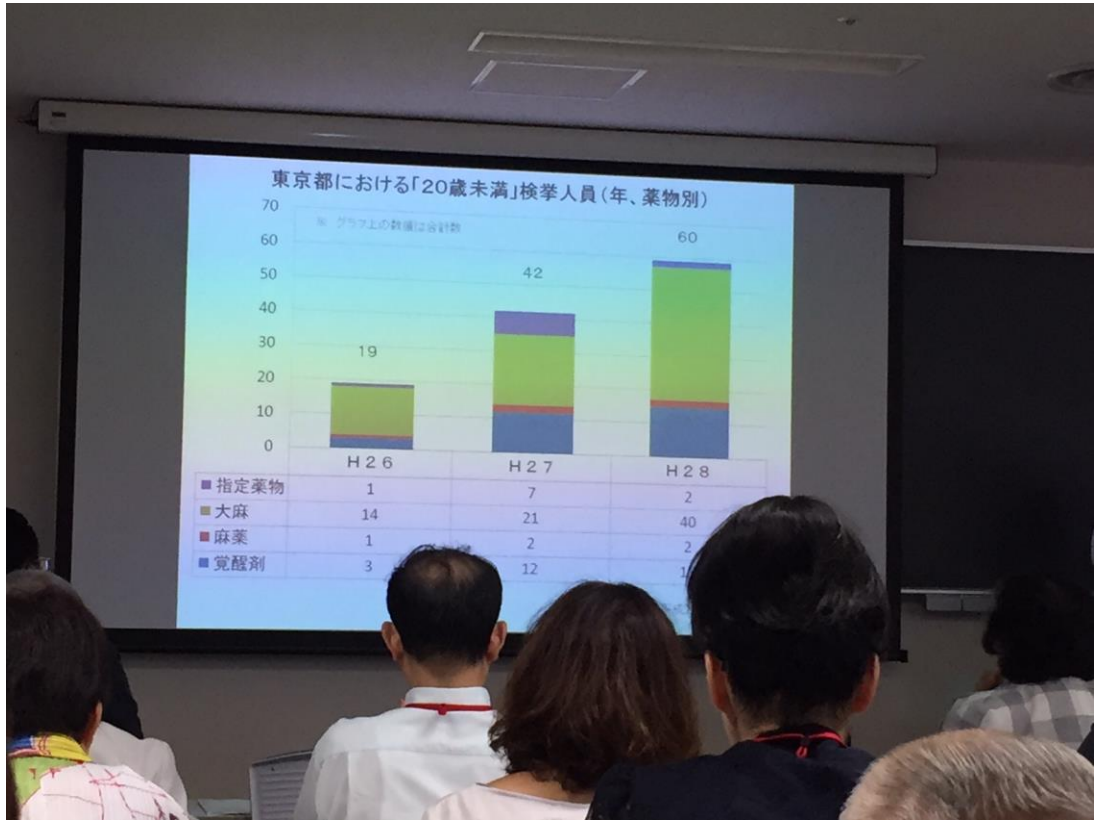
薬物乱用防止教育研修会

平成29年8月19日

東京工科大学蒲田キャンパス

東京都の違法薬物検挙者数





覚醒剤

結晶タイプと錠剤タイプが存在する。

日本では高い値段で買い取られるので、ビッグマーケットになっている。
隠語　シャブ・ネタ（メタンフェタミン）
錠剤の覚醒剤はヤバーと言われている。ミャンマーで製造され、世界へ
覚醒剤原料はある国では合法輸入することができるため、そこから覚醒剤の密造する

- 覚醒剤の幻覚

事例１

宇宙からの指令に従って行動する。

目の前の通行人をすべてひき殺せ

その直後、アンパンを買ってこい。

事例２

裸になり、多摩川の泳いで対岸のホームレスの酒を盗め

ホームレスともめる騒ぎ

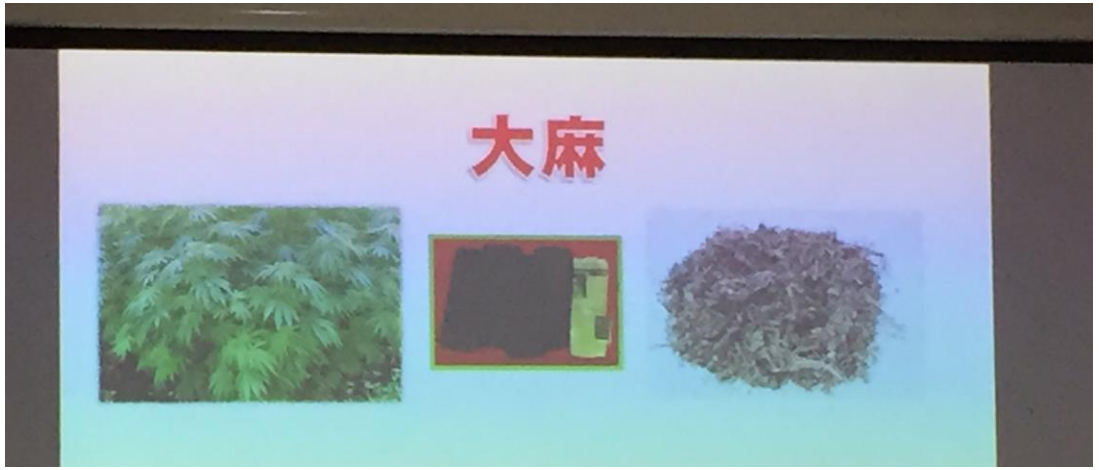
事例3

朝起きたら、数千人の自衛隊員に囲まれている。

世界的戦争が起こる。世界が敵だ

だから、家から出ない。

大麻



葉片を細かく刻み、バターやクッキーに混ぜて
摂取する方法もある。
通常はたばこのように吸う。

- 大麻の幻覚

音がよく聞こえる

音の感覚が研ぎ澄まされる

レゲエの大家がyoutubeにて、ハーブのすばらしさについて語っているが、まさしく幻覚そのもの。

大量使用で、判断力障害、妄想が起こる

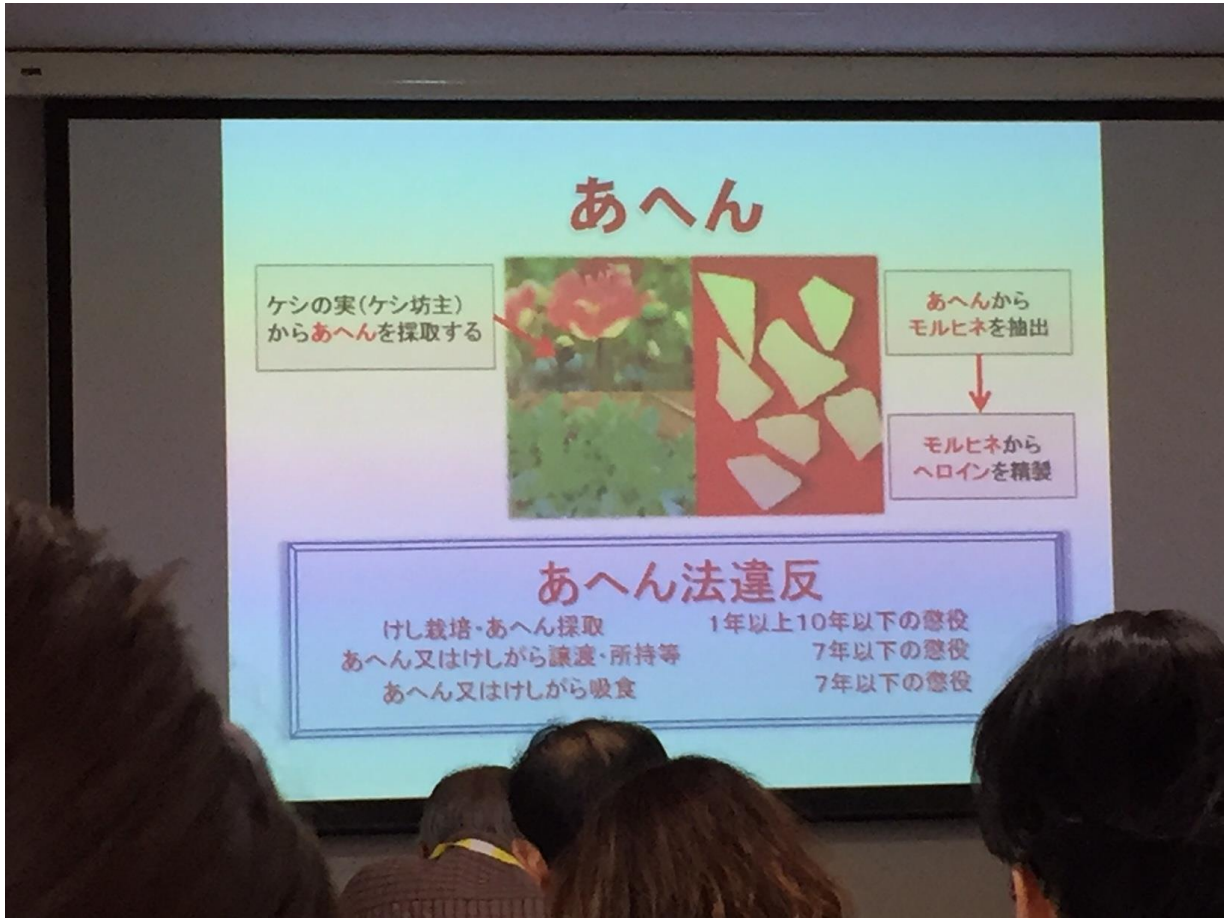
過去現在未来が混在してしまう状況に陥る。

麻薬

麻薬はDOWN系だが、コカインは一時的に高揚すると言われている

六本木など日本にいる外国人に蔓延しているのが問題となっている。

あへん



主な生産地

黄金の三日月地帯
　アフガニスタン・イラン・パキスタン
　　の国境付近で栽培されている。

危険ドラッグ

- 使用後に命を落とす可能性が多い。
- 薬物が特定されないので、治療が難しい。

- 危険ドラッグの幻覚

事例１

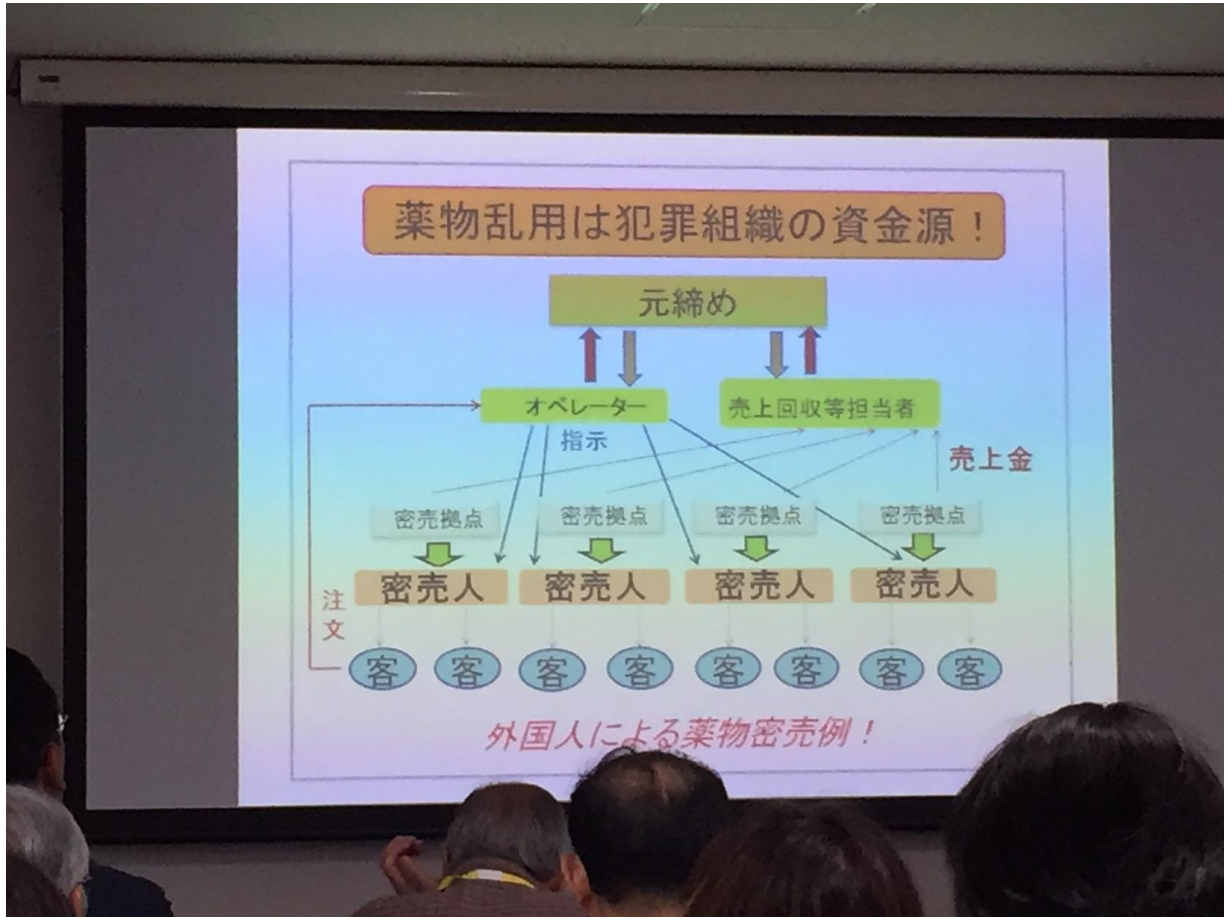
もう一人の自分が自分に危険ドラッグを勧めてきた。

実際には急に立ち上がり、部屋をぐるぐる歩き回る。

幻覚により人を殺傷

変死体の部屋には危険ドラッグと吸入器具が見つかることもある。

なかなか、組織の全容解明に至らない。



まだまだ、危険なインターネット販売

- 隠語を使用して販売
- 安全で合法なハーブとして販売
- 同性愛者の出会い系サイトが暗黙の了解で密売サイトになっている

海外での誘惑

- 留学先での薬物使用
- 旅行先で荷物を預けられ、薬物の運び屋に

★薬物は所持だけでも違法であるということを
もっと伝えてほしい。

薬物の乱用・依存・中毒の理解とその相互関係

埼玉県立精神医療センター　依存症治療研究部　和田　清

- 乱用・・・やっちゃダメなことをやる。
  目的外の使用法で使う。
  決められた用量以上に服用する。

- 有害な使用・・精神的・身体的に異常が出ているのに
  やめられない状況

＜医学用語＞

身体依存と精神依存

- アルコール

身体依存

酒が入っているとシャキッとする。

酒が切れ始めると禁断症状が出る。

精神依存

酒が切れてくると欲しくてたまらなくなる。飲みたくて仕方なくて飲む。

暑い→疲れた→生ビールという思考が出た時に我慢できずに嘘をついてまでも飲みに行く

- タバコ

身体依存　はなさそう

どんなヘビースモーカーでも寝ている時には吸わない。

精神依存　は強烈

雨でも台風でも手に入れる。

どこでも吸いたくなる。

吸える場所を探す。

覚醒剤の身体依存と精神依存

- 2，3日、興奮状態が続き、寝なくても大丈夫。
- その後、つぶれの期間　　この間は覚醒剤を必要としない。
- 再び、薬物探索行動開始。

タバコと同じで身体依存はないが、精神依存が強烈である。

薬物依存・・・脳の異常

- 薬物ごとに脳の作用点がちがうけど、結果的にはA10神経系の異常ということにおさまりがつく。

- 脳内報酬系（A10神経系）

勉強を頑張った→結果良かった→喜び

性的興奮、性行為→喜び

薬物は何の努力もなしにA10神経系が興奮し喜びを感じてしまう。

薬物が入らないと薬物が欲しいという指令をA10神経系が出す。だから欲しがる。

いったんおかしくなったA10神経系は治らない

回復はできる。ニコチン、薬物を入れない限り、通常の生活はできる。

急性中毒と慢性中毒

- 急性中毒は乱用に起こる中毒
  アルコールを一気飲みした時・・・急性アルコール中毒

慢性中毒は依存により起こる中毒
  アルコールを飲み続けることにより肝硬変になる。

有機溶剤の危険性はビジュアルで示せる

- シンナー

現在は使う人もほとんどいない。

脳の神経細胞を溶かす・・・脳の萎縮
網膜細胞、歯が溶ける。

★覚せい剤は脳の働きだけを特異的にダメージを与える
だけなので、臓器や、脳の変化をビジュアル化できない。

乱用は3つに分けられる。

- 乱用だけの乱用者
  - 自分一人だけの時には薬物しない
  - 仲間がいたりすると薬物を使用する
  - 薬物探索行動はない
- 依存による乱用者
  - 自ら薬物を使用しようとする
  - 薬物探索行動がある。
- 慢性中毒にまで至った乱用者

依存と嗜癖

- 依存の定義

ある生体器官とある**薬物との相互作用**の結果として生じた精神的、あるいは時には身体的状態であり・・・。

なんでもかんでも依存と言ってしまうが、

嗜癖と区別する必要がある。

薬物乱用防止教室の進め方

神戸大学名誉教授　石川　哲也

- 薬物乱用防止教育をするうえで大切なもの

正しい知識
薬物は絶対にダメという価値観
断るためのスキル

- 健康な人たちに薬物乱用を防止するために教育する。
  どういうことを身につけさせれば、薬物に手を出さないのか？

薬物乱用には

- 薬物は脳に作用する。
  脳がおかしくなるとどうなるんだろうか？
  興奮するとどうなるのか？

- 薬物には依存性がある。

この2つをしっかりと伝える。

薬物によって失うもの
自由と信頼と健康

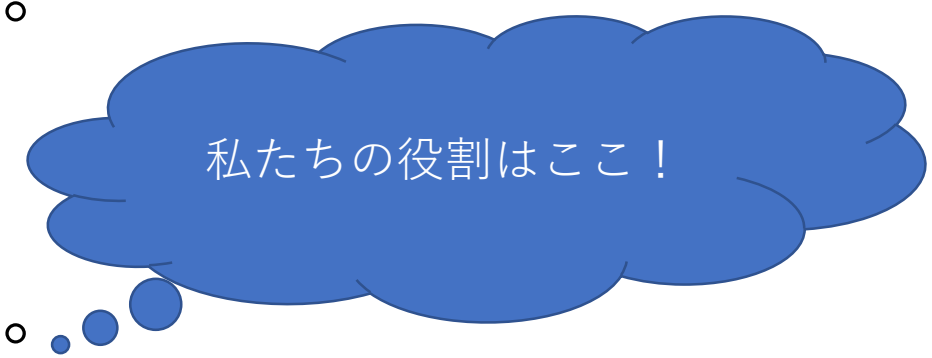
- 頭の中では薬物のことで　いっぱいになる。
  朝起きた時からどうやって、薬物を手に入れようか？
  薬物以外の事を考えられなくなる。

- 信頼を失う。
  約束を破る。仕事ができない。嘘をつく。
  人からの信頼、賞賛がなくなると生きていけない。

- 健康を失う。
  中毒症状を引き起こす。

薬物が手に入らないようにするために

- 警察、税関が現在も取り締まりにより、薬物を手に入らないような環境になるように頑張っている。



- 薬物に手を出さない子供達をつくる。

  薬物はなくならない。

  薬物があったとしても手に入らないようにする。

薬物犯罪は多い

- 刑務所に入っている人の２６％が薬物犯罪

- 少年院
  男子　　薬物犯罪は１％
  女子　　薬物犯罪は14%　　（未成年少女は性の対象となっている。）

- 60%を超える割合で再犯者がいて、増加傾向にある。

  覚醒剤、大麻、危険ドラッグ、向精神薬使用が増えてきている。

薬物乱用防止教室

- 協調すべき点　（ほとんどの子供がやっていない！）
- 不適切な教材、誤解を与えるような言動。
- ダメなものは絶対にダメである。
- 科学的に信頼できる、最新の情報を使う
- 児童、生徒の年齢・興味・必要性など発達段階にあった情報を

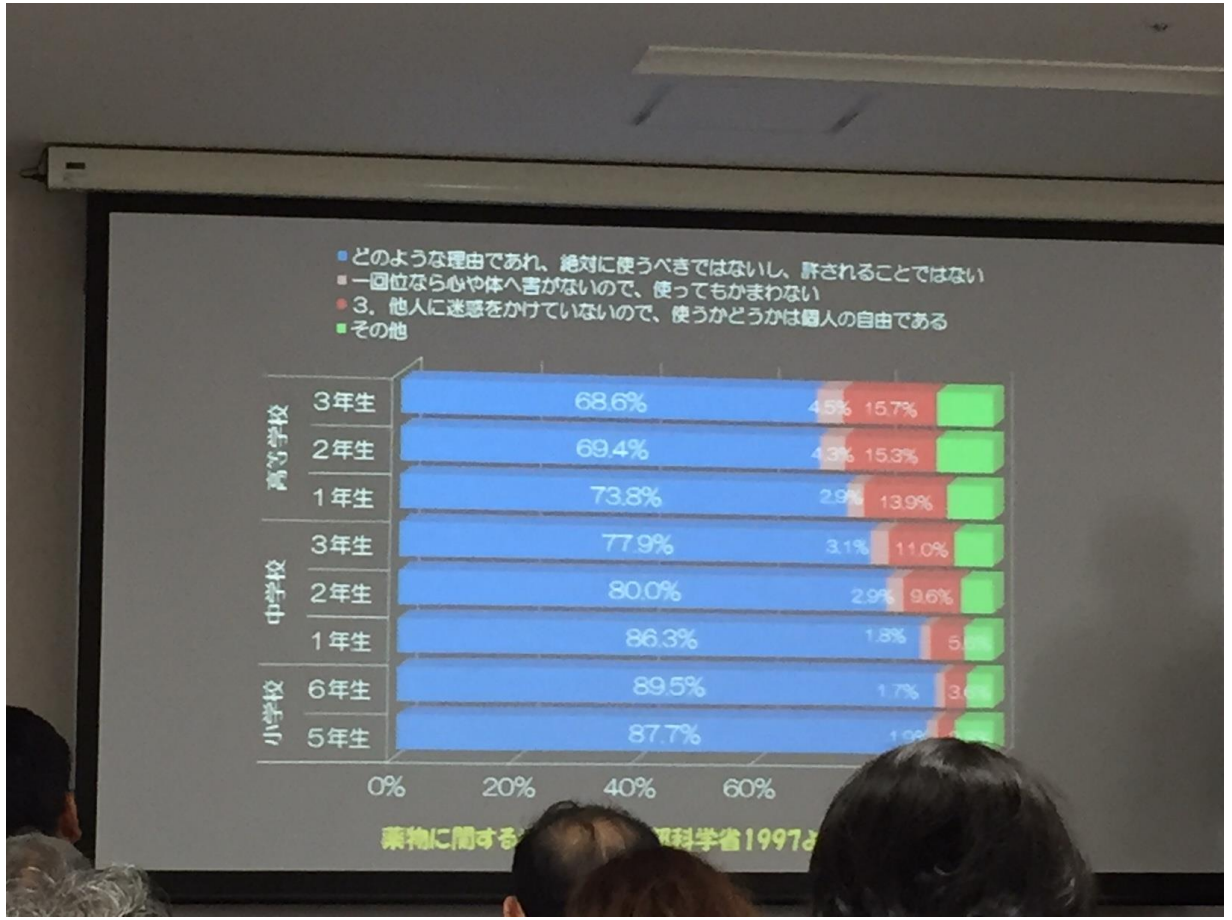
Normative Education

規範の誤認を正すということ。

タバコ・アルコール・薬物をしている子に対して調査をすると、
みんながしている。という誤認をしている。

みんなはしていないということをきちんと教えることが大切。

薬物に対する意識調査


どのような理由であれ、絶対に使うべきではないし、許されることではない
一回位なら心や体へ害がないので、使ってもかまわない
3．他人に迷惑をかけていないので、使うかどうかは個人の自由である
その他
高等学校
3年生
2年生
1年生
中学校
3年生
2年生
1年生
小学校
6年生
5年生
68.6%
4.5%
15.7%
69.4%
4.3%
15.3%
73.8%
2.9%
13.9%
77.9%
3.1%
11.0%
80.0%
2.9%
9.6%
86.3%
1.8%
89.5%
1.7%
87.7%
0%
20%
40%
60%